

## 最近のESRI研究成果より

有配偶女性の生活環境と  
就労、出産、子育てに  
関する分析

～「少子化と夫婦の就労状況・生活環境に関する意識調査」の個票を用いて～より

経済社会総合研究所行政実務研修員

藤田 健

## はじめに

日本では少子化が進展し、その要因として未婚化・晩婚化と夫婦出生力の低下が指摘されている。

未婚化については経済社会総合研究所少子化研究担当（以下、少子化ユニット）でも、平成23年度に「未婚男性の結婚と家族形成に関する意識について非正社員に焦点を当てた実証分析～「未婚男性の結婚と仕事に関する意識調査」の個票を用いて～」<sup>1</sup>が公表された。夫婦出生力の低下に関しては、平成24年度に、「夫の育児参加と夫婦の第2子、第3子の出生意欲」「夫婦の伴侶性と家族規範意識が追加出産意欲に及ぼす影響」など5つの角度から分析を行った<sup>2</sup>。その結果、①夫の育児参加が少ないことは、男女とも現実的に第3子を出産しようとする意欲を低下させる、②情緒的サポートが多いことが、おおむね第2子および第3子の追加出産意欲を高めている、③夫婦共通に行う行動が多いことや夫婦共通の趣味があることは、おおむね第1～3子の追加出産意欲を高める、④家族規範意識が強い者ほど、第1子および第2子の出生意欲が高いなどの結果が得られた。

これらに加え、夫婦の出生力の低下に関しては「妻の就業形態」「子どもに期待する教育水準」「妻の負担感」及び「夫の関わり方」など、夫婦の経済環境・生活

環境が影響していることも考えられる。そこで、少子化ユニットでは平成25年度に25歳から39歳までの有配偶女性で、子ども数0人または末子が6歳未満の層を対象に、本人の就業形態及び現在子ども数別に、夫婦の就業状況、生活環境、出生意欲などについての意識調査を実施した。その結果を平成26年9月にDiscussion Paper Series No.311「有配偶女性の生活環境と就労、出産、子育てに関する分析～「少子化と夫婦の就労状況・生活環境に関する意識調査」の個票を用いて～」<sup>3</sup>（以下「DP」という。）として公表した。

## 概要

第1部で、この意識調査の趣旨、方法、及び主な調査結果について紹介し、第2部では、意識調査の個票を用いて、有配偶女性の出生意欲に関する要因について下記の4つの角度から行った分析結果をまとめている。なお、執筆については少子化ユニットのメンバーでそれぞれ執筆分担している。

- 1 妻の雇用形態別にみた第一子出生意欲の規定要因の分析～有期妻の第一子出生意欲はなぜ正規妻より低いのか～（麻田千穂子）
- 2 キャリア初期の人材育成と有配偶女性の就業（朝井友紀子）
- 3 教育アスピレーション<sup>4</sup>と出生意欲（高村静）
- 4 育児期における女性の負担感と配偶者の関わり～子ども1人の女性を中心に～（高見具広）

本稿ではこのうち、「追加出生意欲」に関する分析（上記視点のうち、1及び4）の結果について紹介する。

## 妻の雇用形態別に見た第一子出生意欲の規定要因の分析から

まず1については、麻田が有期妻の第一子出生意欲はなぜ正規妻より低いのかという問に対し、3つの仮

1 全文は経済社会総合研究所HP ([http://www.esri.go.jp/jp/archive/e\\_dis/e\\_dis296/e\\_dis296.html](http://www.esri.go.jp/jp/archive/e_dis/e_dis296/e_dis296.html)) に掲載。

2 「夫婦の出生力の低下要因に関する分析～「少子化と夫婦の生活環境に関する意識調査」の個票を用いて～」([http://www.esri.go.jp/jp/archive/e\\_dis/e\\_dis301/e\\_dis301.html](http://www.esri.go.jp/jp/archive/e_dis/e_dis301/e_dis301.html)) に掲載。

3 全文は経済社会総合研究所HP ([http://www.esri.go.jp/jp/archive/e\\_dis/e\\_dis311/e\\_dis311.html](http://www.esri.go.jp/jp/archive/e_dis/e_dis311/e_dis311.html)) に掲載。

4 子どもにどの程度の教育水準を期待するか（本研究では「どうしても大学以上の教育をうけさせたい」）

説を立て(子どもの数がゼロから1となる)追加的出生意欲を被説明変数としたプロビット分析により検証している。

- (1) 経済環境(経済環境に恵まれないこと)仮説
- (2) 両立支援(職場の両立支援の利用可能性が低いこと)仮説
- (3) 保育(保育サービスを利用しにくいこと)仮説

第1に、正規雇用と有期雇用の妻の両者とも、第一子出生意欲に対して、夫や妻の収入の高さや家計の苦しきなど家計の経済環境全般ではなく、夫の低収入のみがマイナスの影響を及ぼしており、仮説は夫の低収入についてのみ支持された。第2に、職場の両立支援に関しては、正規雇用の妻の第一子出生意欲を高める効果を確認できた。他方、有期雇用の妻においても正の効果を確認できたが、正規雇用の妻ほど明確なものではなく、仮説は弱く支持された。第3に、保育サービスの利用可能性が高いことは正規雇用の妻の第一子出生意欲を高めることになるが、有期雇用の妻に対しては効果がなく、仮説は支持されなかった。

以上から、政府が保育と両立支援に注力してきていることは、正規妻については少子化緩和に有効であるという興味深い知見が得られた。一方、有期雇用の妻に対しては、正規雇用の妻と異なり、職場の両立支援は第一子出生意欲を高める効果が弱く、また保育サービスはそのような効果がなかった。

このことは、有期雇用の妻で就業継続を希望する層に関しては、有期契約であっても産前産後休業を取得できることの権利理解の浸透や雇用実態に応じた両立支援の充実及び円滑な利用支援が求められる、などの政策的な含意が示している。

#### 育児期における女性の負担感と配偶者の関わり

4については、高見が育児期の女性における負担の所在とそれがもたらす追加出生意欲について、計量分

析により検証している。

まず、育児期の子ども1人をもつ女性の負担感について、「イライラしている」ことをひとつの指標として、その規定要因を分析している(以下、「負担」)。具体的には、正規雇用の女性における家事・育児分担と、配偶者が家庭にいても気がはりつめた状態であることのマイナス効果を表1のとおり検証している。

表1から、まず、正規雇用の女性は、家事・育児をもっぱら自分ひとりで行わざるを得ない環境が負担を感じさせていることがわかる。有期雇用の女性においては、地域において子どもを預けられる環境にないことが負担に関係する。また、就業形態によらず、子どもの学歴に対する意識が強い女性は負担を感じやすい。さらには、配偶者が家庭にいても気がはりつめた状態であることは、その妻にも心理的負荷を与えていることなどが示された<sup>5</sup>。

次に、子ども1人の女性における追加出生意欲の規定要因について、上記の負担(「イライラ」)を含め、表2のとおり分析を行っている<sup>6</sup>。

表2で示されたことは、まず、子ども1人の女性において負担(「イライラ」)があることは追加出生意欲を低下させる。ただ、負担(「イライラ」)自体が直接的に追加出生意欲を阻害するというより、子育てを「つらい」と感じることを媒介して追加出生意欲を阻害する部分が多い。負担(「イライラ」)のある女性では、子育てを「楽しい」と感じる割合が低いが、このことが追加出生意欲の低下にまでつながりうることを示している。

表1にあるように、配偶者が家庭にいても気がはりつめていることで、妻にも心理的負荷を与え、さらに表2にみられるような追加出生意欲を低下させるということは興味深い結果である。このことから、配偶者の心理的負荷に影響を与えると考えられる配偶者である夫の長時間労働を解消し、早い時間帯での帰宅を可能とする働き方改革が求められている、などの政策的含意が示されている。

5 このほか、配偶者学歴、結婚率、本人及び配偶者年収、配偶者帰宅時刻についてはほぼ有意な係数は得られなかった。

6 イライラがあると子育てを「楽しい」と感じられない場合も生じ、それが追加出生意欲を阻害するのではないかという点の検証であり、「イライラしている」ことの追加出生意欲への直接の影響を検証するモデル(モデル1)と、「子育てについての感じ方」変数を投入し係数値の変化を検証するモデル(モデル2)の2つのモデルで分析している。

おわりに

本稿では追加出生意欲に関する2つの分析結果について紹介したが、それ以外の分析で「学卒時の就業継続意欲が高い者ほど、正規雇用として就業継続している」、「子育てにかかわる経済的負担感は教育アスペリションが高い場合でも強いとはいえない」などの幅

広い分析結果も得られた。是非、詳細については、DPをご覧いただきたい。

この研究が、誰もが希望する出産、子育てのできる社会に向けた一助になればと、期待している。

藤田 健 (ふじた けん)

表1 育児期の女性における「イライラしている」ことの規定要因(二項ロジスティック回帰分析)

分析対象	正規雇用・子ども1人		有期雇用・子ども1人		無職・子ども1人	
	係数	標準誤差	係数	標準誤差	係数	標準誤差
本人年齢	-.030	.025	.011	.024	-.034	.023
配偶者年齢	.012	.018	.007	.017	-.012	.017
本人学歴(基準: 中学・高校卒)						
専門・短大・高専卒	-.097	.237	-.265	.183	-.254	.185
大学・大学院卒	-.452	.237	-.383	.193	-.571	.193
子ども年齢(基準: 0歳)						
1歳	.351	.191	.666	.241	.408	.183
2歳	.100	.231	1.025	.245	.354	.207
3歳	.757	.264	1.102	.264	.525	.246
4歳	.113	.335	.947	.280	.433	.288
5歳	.146	.381	.951	.295	.108	.339
本人労働時間	.115	.045	-.071	.043		
勤務先に両立支援制度あり	-.430	.187	.032	.135		
同近居(自分の親)	.320	.166	-.160	.170	.067	.188
同近居(配偶者の親)	-.110	.194	.037	.178	-.069	.184
地域の保育環境(基準: 待機せず預けられる)						
探せばどこかに預けられる	.100	.190	.369	.189	.176	.260
探しても難しい	.177	.221	.554	.216	.279	.275
わからない	.170	.266	.716	.253	.332	.281
学歴に対する意識の強さ	.210	.070	.243	.068	.175	.067
家事・育児分担: もっぱら自分ひとり	.726	.165	.077	.155	.162	.138
配偶者: 気がはりつめている	.859	.180	.798	.178	.365	.170
定数	-1.159	.939	-1.863	.853	1.057	.854
$\chi^2$ 乗値		101.856**		91.65**		52.057**
対数尤度		1320.679		1370.02		1391.197
N		1120		1069		1052

網掛け部は有意

表2 子ども1人の女性における追加出生意欲の規定要因  
(二項ロジスティック回帰分析：モデル2子育てについての感じ方を含む分析)

分析対象	正規雇用・子ども1人		有期雇用・子ども1人		無職・子ども1人	
	係数(B)	標準誤差	係数(B)	標準誤差	係数(B)	標準誤差
本人年齢	-.067	.027	-.083	.024	-.086	.025
配偶者年齢	-.005	.018	-.041	.017	-.065	.017
本人学歴(基準：中学・高校卒)						
専門・短大・高専卒	.529	.243	.238	.185	.167	.198
大学・大学院卒	.458	.239	.098	.192	-.173	.206
配偶者学歴(基準：中学・高校卒)						
専門・短大・高専卒	-.008	.220	.151	.188	.145	.222
大学・大学院卒	.212	.196	.084	.167	.360	.184
結婚年(基準：2006年以前)						
2007～2008年	.279	.245	-.073	.190	.072	.208
2009～2010年	.516	.252	.094	.216	.078	.223
2011年以降	.819	.283	-.166	.263	.263	.265
子ども年齢(基準：0歳)						
1歳	-.044	.208	.003	.242	.618	.218
2歳	.149	.244	.033	.248	-.028	.222
3歳	.047	.274	-.399	.259	-.291	.256
4歳	-.818	.313	-.649	.277	-.262	.294
5歳	-.384	.360	-1.173	.287	-.430	.332
本人年収(基準：100万円未満)						
100～300万円未満	-.313	.303	-.150	.153		
300万円以上	-.429	.305	.146	.263		
本人労働時間	.066	.047	.001	.042		
勤務先に両立支援制度あり	.191	.198	.272	.137		
配偶者年収(基準：400万円未満)						
400～600万円未満	.163	.177	-.004	.149	.077	.178
600万円以上	.112	.190	-.320	.202	.065	.177
同同居(自分の親)	-.345	.177	-.140	.173	-.258	.201
同同居(配偶者の親)	.339	.208	-.117	.177	.091	.202
地域の保育環境(基準：待機せず預けられる)						
探せばどこかに預けられる	-.093	.204	-.251	.193	.588	.273
探しても難しい	-.408	.230	-.270	.219	.120	.288
わからない	-.140	.294	-.182	.266	.325	.294
家事・育児分担：もっぱら自分ひとり	.167	.188	-.082	.158	.050	.146
配偶者：心配事や悩みを聞いてくれる	.349	.165	.382	.150	.351	.155
本人：イライラしている	-.208	.160	-.235	.144	-.563	.156
子育てについての感じ方(基準：楽しい)						
楽しい・つらいが同じくらい	-.438	.167	-.179	.148	-.195	.159
つらい	-.926	.354	-1.023	.300	-.650	.280
定数	2.237	1.004	4.929	.875	5.335	.939
$\chi^2$ 乗値		130.843**		178.463**		185.541**
対数尤度		1206.679		1348.907		1252.768
N		1172		1128		1164

網掛け部は有意